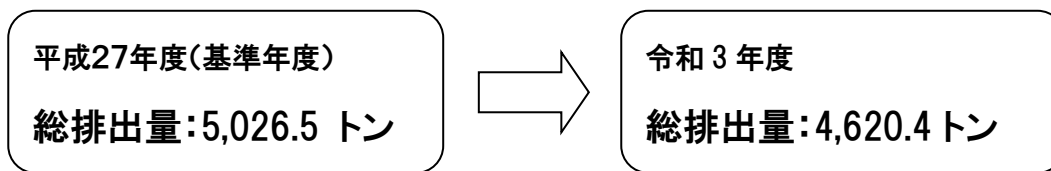


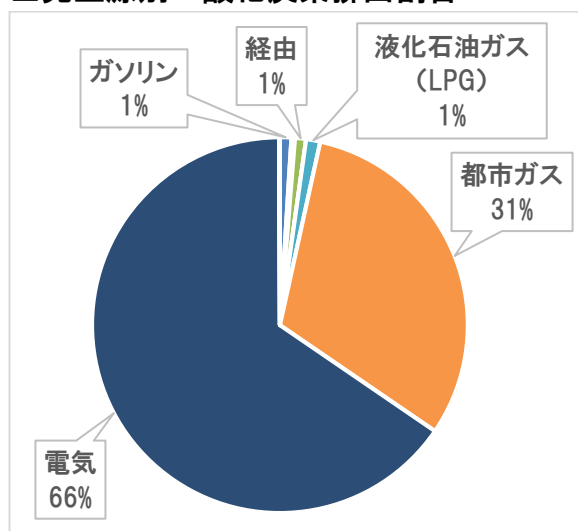
# 令和4年度温室効果ガス排出量まとめ

## 1. 温室効果ガス排出量について

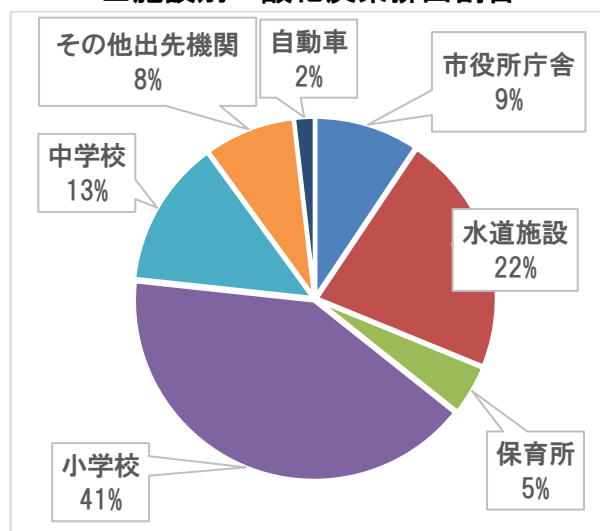


※平成27年度比 8.1%削減


### ■発生源別二酸化炭素排出割合




### ■施設別二酸化炭素排出割合



## 2. 森林整備によるCO<sub>2</sub>吸収量

 森林整備面積：5.43ha

 CO<sub>2</sub>吸収量：41.0t ※小数点第2位を四捨五入している。

H27年度比  
7.5%削減

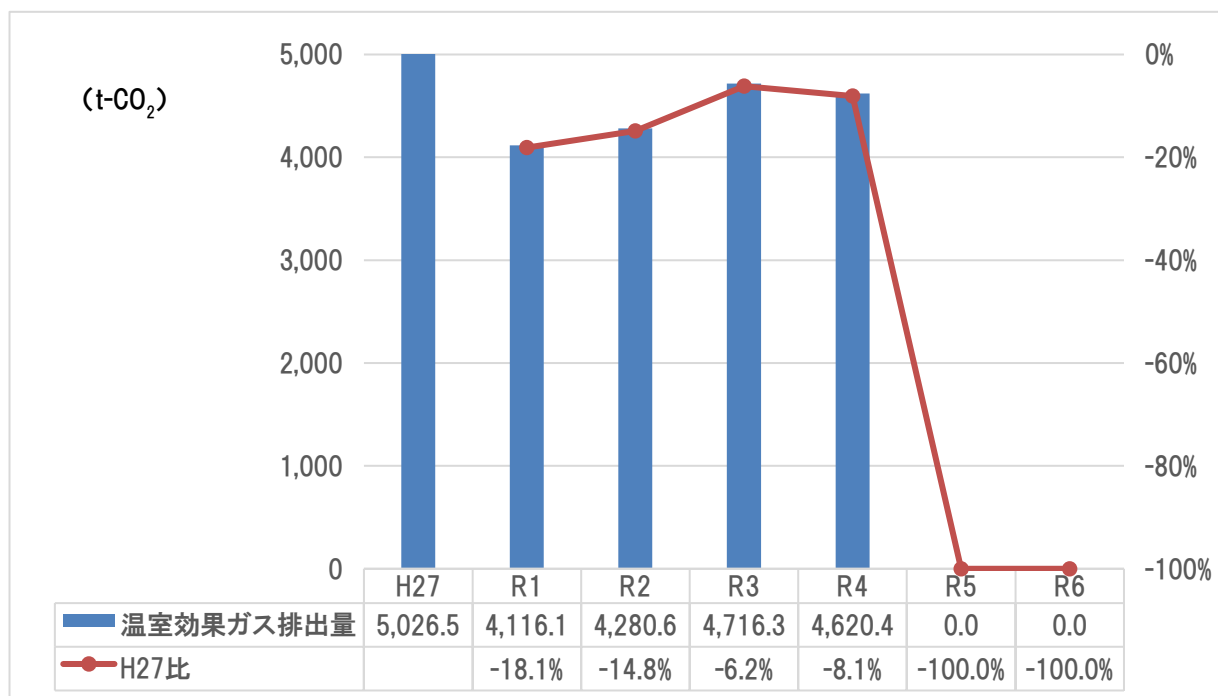
全体(総排出量 4,620.4t - 森林吸収量 41.0t) = 4,579.4t

※平成27年度総排出量 4,952.2 t

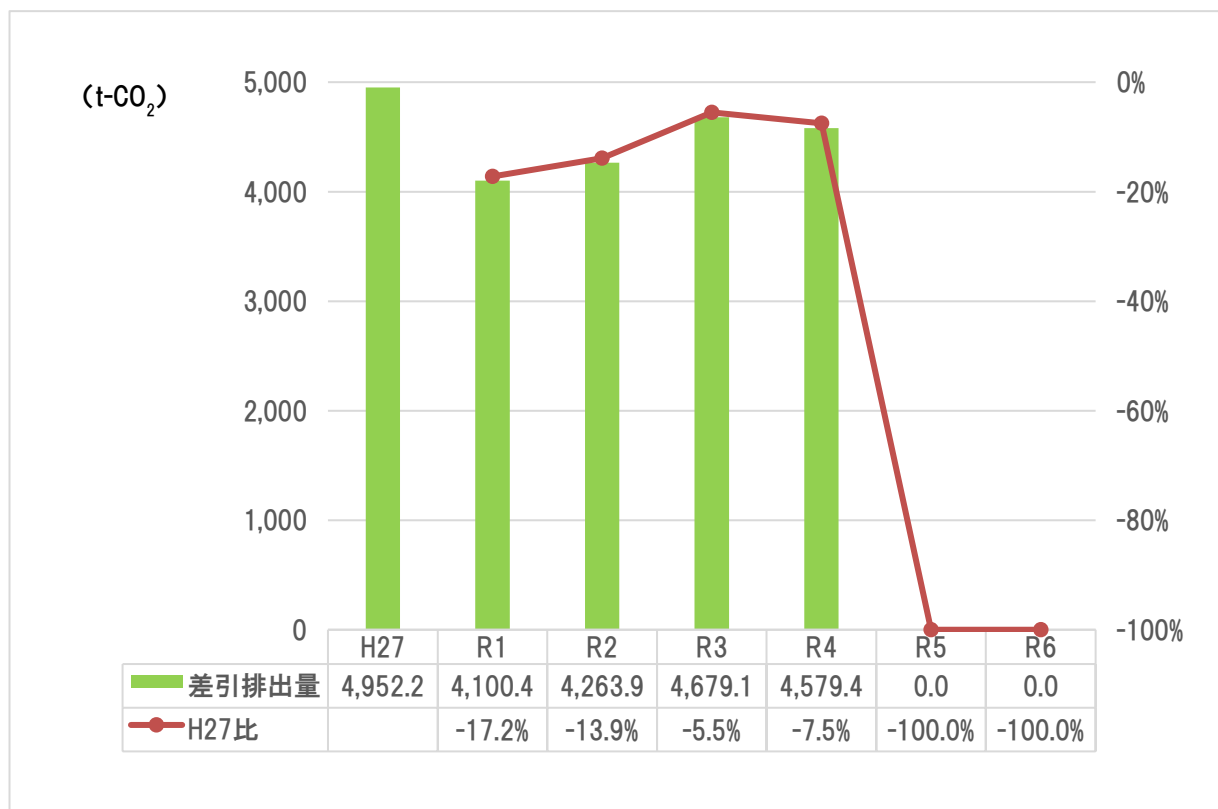


## 《推移》

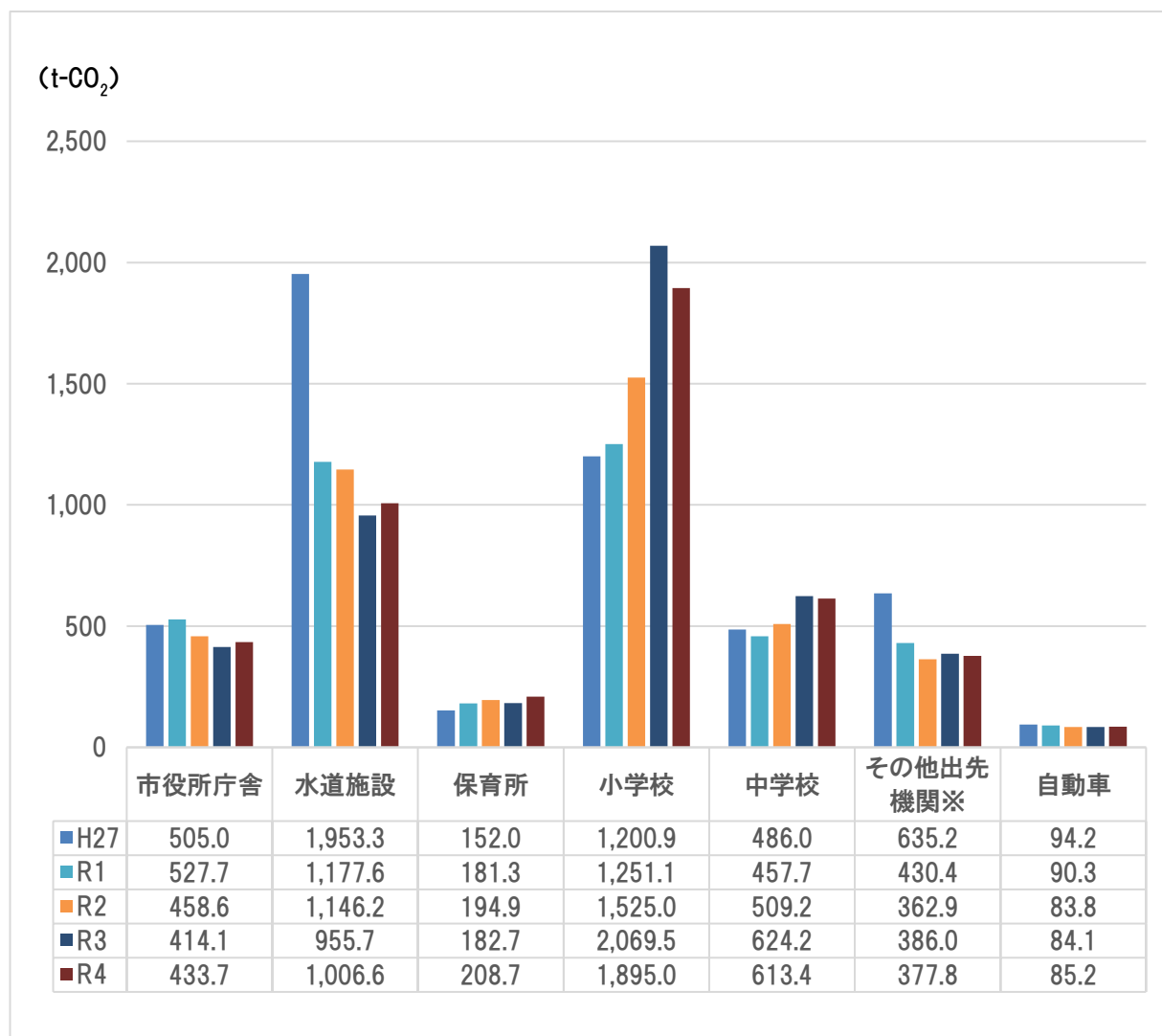
### ① 温室効果ガス排出量推移



### ② 温室効果ガス排出量（森林吸収量含む）推移



### ③ 施設別の温室効果ガス排出量推移



※中央公民館、図書館、北開田会館、北開田児童館、老人福祉センター、保健センター、多世代交流ふれあいセンター

### 《考察》

令和4年度に市関係施設から排出された温室効果ガス排出量は、4,620.4 tであり、第六次長岡京市役所地球温暖化防止実行計画の基準年度である平成27年度の温室効果ガス排出量5,026.5 tと比較すると、8.1%減少する結果となりました。

平成27年度と比較して温室効果ガス排出量が下がった最も大きな要因は、契約電力の排出係数が下がったことによります。

前年度との比較で見ると、温室効果ガス排出量は、令和3年度4,716.3 tに対し、95.9 t減少しました。その内訳を発生源別に見ると、電気由来の排出量が、77.4 t-CO<sub>2</sub>減と、他の発生源に比べ最も大きなウェイトを占めています。

さらに電気由来の排出量を施設ごとに見ると、東第2浄水場の耐震化工事が完了したことにより、年度の前半から揚水・浄水が再開したことに伴い、当該施設の電気使用量が495,538kWh 増えています。(全施設で572,630kWh 増加。)しかし一方で、多くの施設の契約電力の排出係数が下がったことにより、全施設のCO<sub>2</sub>排出量としては、77.4 t 下がる結果となりました。

個別の施設の動きとして特筆すべき点は、R4年6月の京都済生会病院の移転により、それまで集計対象としていた乙訓休日応急診療所が集計から外れることがあります。(同診療所は京都済生会病院の移転に伴い、同病院敷地内へ移転。)また、長法寺ポンプ場については、外部団体の利用に供しており、職員の常駐がなく、エネルギーの使用がほとんどないことから、今回の集計から外しています。

温室効果ガスの吸収源である西山の森林CO<sub>2</sub>吸収量については、令和4年度整備面積5.43haに対し、41.0 t-CO<sub>2</sub>の吸収量が認定されました。森林吸収量を差し引いた後の温室効果ガス排出量では、基準年度の平成27年度が4,952.2 t-CO<sub>2</sub>であったのに対し、令和4年度は4,579.4 t-CO<sub>2</sub>となり、7.5%の削減となりました。

2050年ゼロカーボンシティを目指す市の行政として、今後も省エネ推進・再エネ導入の余地を探り、取り組みを着実に積み上げていく必要があります。